

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：貿易統計（7月）

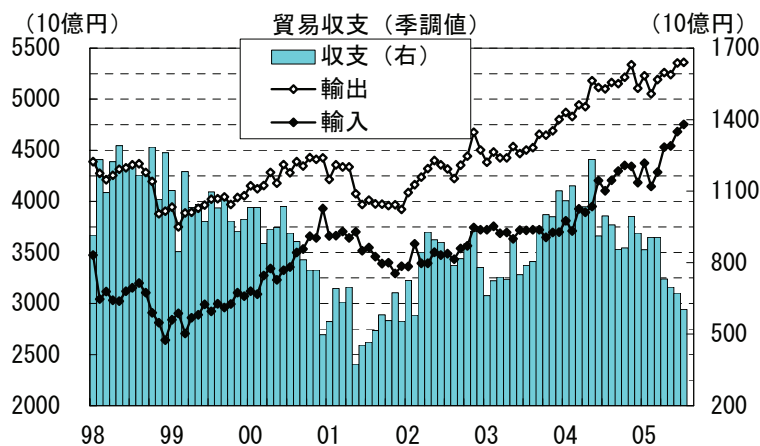
発表日：8月25日（木）

～ 輸出は前月比減少だが、先行きは改善方向 ～

(No. J-93)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴



(出所：貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
04年7月	997	5101	4104	1129
8月	959	5165	4206	573
9月	856	5152	4296	1213
10月	862	5214	4352	1154
11月	994	5337	4343	597
12月	924	5107	4182	1133
05年1月	855	5229	4374	194
2月	906	5053	4146	1090
3月	906	5191	4285	1119
4月	731	5262	4531	958
5月	698	5241	4543	293
6月	673	5356	4683	870
7月	605	5359	4754	874

(出所：貿易統計・財務省)

前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
04年 1月	11.3	▲ 1.7	13.1	0.4	11.1	20.2	1.1	▲ 4.4	5.7	▲ 6.4	2.1	8.3
2月	10.2	▲ 1.6	12.1	5.9	8.7	10.2	▲ 0.8	▲ 3.6	3.0	▲ 5.2	5.2	5.3
3月	13.2	▲ 0.8	14.1	7.2	14.3	12.6	12.4	▲ 4.3	17.5	10.9	17.0	21.2
4月	10.8	▲ 2.1	13.2	4.0	6.3	14.6	6.6	▲ 3.2	10.2	▲ 1.0	4.8	11.9
5月	10.0	▲ 0.6	10.6	▲ 4.8	7.9	11.2	5.0	5.3	▲ 0.3	▲ 7.1	4.7	4.6
6月	19.4	1.3	17.9	12.3	18.8	19.3	15.5	5.1	9.9	4.3	12.2	12.4
7月	14.3	1.0	13.2	6.0	11.4	15.7	8.4	4.5	3.7	▲ 0.2	4.6	7.0
8月	10.5	▲ 0.5	11.1	5.1	7.7	11.8	18.7	4.9	13.1	23.1	6.1	14.8
9月	12.1	0.5	11.5	7.2	4.7	16.5	12.5	8.5	3.7	17.1	▲ 2.7	8.8
10月	11.7	7.0	4.3	▲ 3.7	1.2	7.9	12.7	12.1	0.6	40.7	▲ 5.4	▲ 2.2
11月	13.4	7.6	5.3	2.8	3.1	13.6	28.1	11.8	14.6	10.6	11.8	16.0
12月	8.8	5.9	2.7	0.5	3.2	6.8	11.1	8.1	2.8	16.6	▲ 0.3	4.5
05年 1月	3.2	6.5	▲ 3.1	▲ 5.2	▲ 14.6	▲ 1.5	11.4	8.7	2.5	▲ 0.5	4.2	4.9
2月	1.7	6.1	▲ 4.2	2.3	▲ 6.7	▲ 3.7	11.4	6.6	4.5	4.5	▲ 3.4	12.2
3月	6.1	4.9	1.1	3.4	▲ 9.2	1.0	7.7	6.0	1.6	▲ 1.2	▲ 5.1	4.7
4月	7.8	9.3	▲ 1.4	0.8	▲ 2.5	▲ 1.9	12.8	13.4	▲ 0.6	▲ 4.2	2.5	2.7
5月	1.4	4.0	▲ 2.5	2.0	▲ 7.8	▲ 5.0	18.7	9.2	8.7	6.8	3.5	11.0
6月	3.6	3.1	0.5	2.4	▲ 8.8	▲ 0.6	11.1	8.9	2.0	0.0	▲ 2.4	6.0
7月	4.3	5.3	▲ 1.0	▲ 1.1	▲ 2.9	▲ 4.7	11.6	12.4	▲ 0.7	6.7	▲ 4.9	▲ 1.1

○ 原油高による黒字縮小

2005年7月の貿易黒字額（原数値）は8,736億円（前年比▲22.6%）となった。原油価格上昇によって黒字額が大きく押し下げられている状況が続いており、前年比では4ヶ月連続での2桁減となる。当面、こうした傾向は続くだろう。なお、市場予想（コンセンサス7,300億円、レンジ3,059～9,208億円）は若干上回ったが、ほぼ予想の範囲内とあって差し支えない。

○ 輸出はやや期待外れ

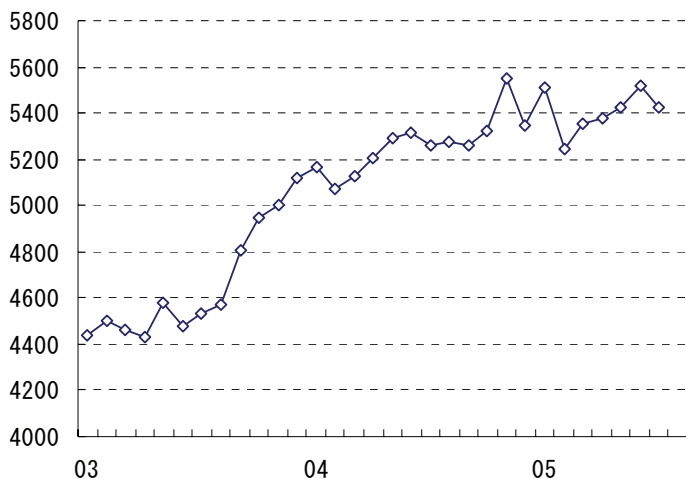
注目の輸出は、実質輸出（輸出金額/輸出物価、季節調整済み）が前月比▲2.0%と、前月の上昇分を吐き

出す格好になった。7月の4-6月期比も▲0.3%と芳しくない。景気の加速を期待している向きからすれば、今月の輸出の減少はやや期待外れの結果であり、過度の輸出回復期待は後退した。足元で既に輸出が再加速しているという状況ではなく、基本的にはまだ横ばい圏（もしくは緩やかな増加）での推移が続いていると判断される。

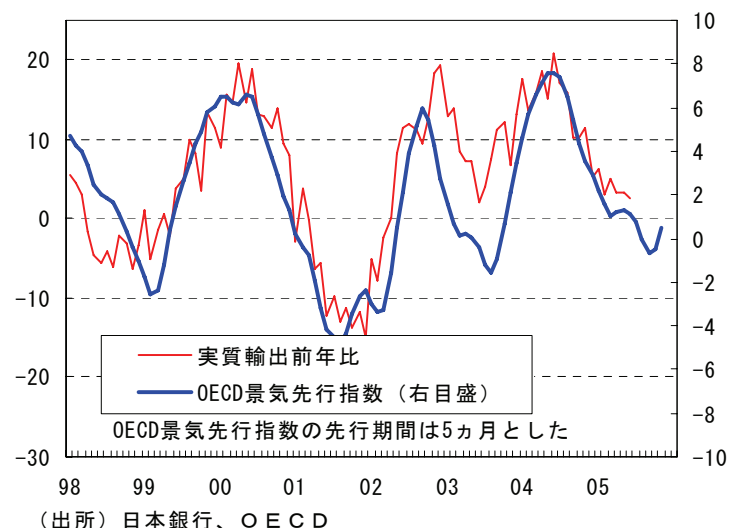
来週公表される7月の鉱工業生産は予測指数では前月比▲0.2%となっているが、7月の実質輸出の動きから考えると予測指数を下回ってくる可能性が高いだろう。

このように7月の輸出は期待を裏切ったが、これをもって悲観的になる必要はない。輸出の内訳をみると、米国向けは悪化したものの、中国向けが前月から改善している。昨年末から落ち込んでいた中国向け輸出にこのところ改善の兆しが見えることは心強い。依然として中国向け輸出の大きな抑制要因となっている中国での在庫調整に関しては、水準自体は依然としてかなり高いものの、方向としては在庫は減少に向かっていくようだ。今後もしばらくは目立った増加は期待できないが、中国向け輸出は少なくとも最悪期は脱したといえそうだ。また、輸出の動向に先行する傾向のある指標をみても、OECD景気先行指数、米国ISM製造業新規受注、北米半導体製造装置BBレシオなどでは足元改善が見られる。このように、輸出の低迷を示唆する指標ばかりであった数ヶ月前と比べれば、輸出を取り巻く環境は明らかに改善している。かねてから指摘の通り、過去の平均的な先行期間からすると、輸出は遅くとも今年10-12月期頃には明確に増加してくると思われる。

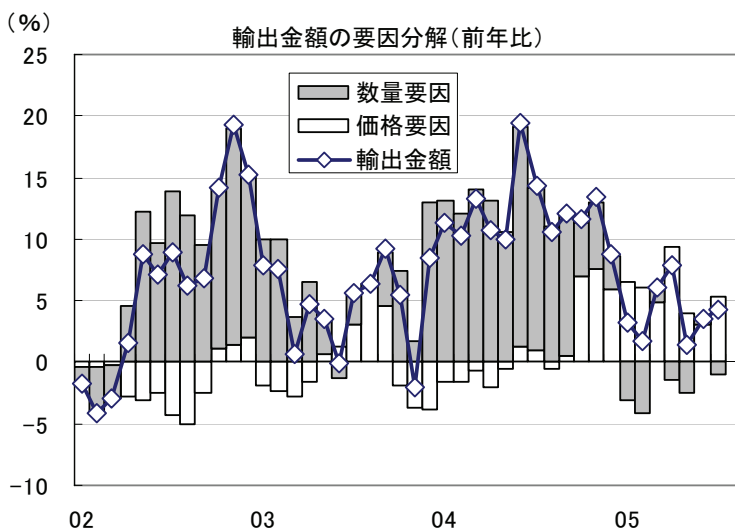
実質輸出（季節調整値）



実質輸出（前年比）とOECD景気先行指数



輸出金額の要因分解（前年比）



輸入金額の要因分解（前年比）

